



兵庫の建築  
Architecture of  
HYOGO

写真・文 岡崎 雅彦

**若人の広場公園** 設計 丹下 健三氏 竣工 1967年

「戦没学徒記念若人の広場」は、先の大戦において、学業半ばでさまざまな軍需工場での生産に動員され、そこで亡くなった男女学徒を追悼する施設として、1967（昭和42）年に建設されました。戦地に向かった学徒も含めるとその数は約400万人に及び、そのうち約20万人余の学徒が亡くなりました。

そうした若く尊い命を捧げた学徒の思いや戦争の悲惨さを後世に伝え、恒久平和を願う無二の施設であります。

世界的建築家の故・丹下健三氏（1913～2005年）の設計で、象徴的な鋭角に尖った塔が天空に向かって屹立している高さ25mの「記念塔」と、周囲が石垣の壁面からなる造形美が印象的な「展示資料館」が併設されていました。

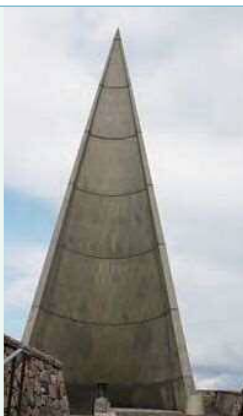
記念塔の下部には「若者よ 天と地をつなぐ灯たれ」と記された「永遠の灯」が灯されていましたが、阪神・淡路大震災の被害などにより閉鎖を余儀なくされていました。多くの再開を望む声を受け、丹下氏の設計思想が強く反映された当初の建築物としての魅力を最大限に活かした再整備を行い、地元の若者により採火された「永遠の灯」を灯し、恒久平和を願い、誓い合い、市民が憩える都市公園として、2013（平成25）年8月に工事着手し、戦後70年にあたる2015（平成27）年3月に完成、再び開園いたしました。

福良湾を見下ろす大見山（標高145m）に位置する「若人の広場公園」展望台からは雄大なパノラマが広がり、鳴門海峡を眺望することができます。時には、雲の切れ間から降り注ぐ「天使のはしご」が現れ、鳴門海峡を神秘的な光で包みます。

**永遠の灯** ともじび

南あわじ市阿万塩屋町の頂にそびえる記念塔の下部にある永遠の灯は、若くして、志半ばで亡くなった学徒たちの生命を悼むために、また、その生命が願ったものを道標として次の若い世代に伝えるために、この若人の広場にて、復活し、再び永遠に燃え続けます。

この火は、古くから人々の信仰の地で、霊場として繁栄した淡路島最高峰、論鶴羽山山頂近くに鎮座する論鶴羽神社で、2015（平成27）年3月7日、終戦の年に誕生された方や、戦争の犠牲となった学徒と同年代の若者たちによって火を起し、採火されたものです。



**企画情報委員会より** 企画情報委員長 山本 幸治

平成30年1月号より「集 tsudoï」が復刊となりました。当方は4頁でお送りしますが、会員の皆様にとって有益な会報誌とすべく、漸次内容を充実させていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いします。「集 tsudoï」に関する皆様からのご意見・ご要望をお待ちしています。士会ホームページの最下段にあります「お問い合わせ」のフォームより、お気軽にご投稿ください。

目次	P.1	兵庫の建築・若人の広場公園	企画情報委員会より
	P.2	青年委員会事業報告	
	P.3	研修委員会事業報告	
	P.4	会員の手引き 2018年度版	

興味のあることは？ 情報を入手するには？  
建築士会の年間スケジュールは？ 具体的な活動は？

**メール配信と名簿のご案内**

「集 tsudoï」誌面に掲載できない情報などを「兵庫県建築士会メールニュース」として配信しています。受信希望の方はホームページからメール配信登録をしてください。またホームページの名簿への掲載を希望される方は会員建築士名簿のページからお手続きください。

公益社団法人 兵庫県建築士会 URL: <http://www.hyogo-aba.or.jp/>  
E-mail: [info2908@hyogo-aba.or.jp](mailto:info2908@hyogo-aba.or.jp)